

卷之三

パソコンのキーボードの一番上の列を左から右へ読んでいくと、QWERTYとなつていて、これが確認できると思う。世界中のキーボードがそういう文字の配列になつている。

なぜそういうなつていいのかご存じだろうか。この質問に返ってくる答えとして多いのは、それが一番文字を打ち込みやすい配列だからだろう、というものだ。しかし、答えは逆なのだ。文字を打ち込みにくいた配列がQWERTYなのである。

学習院大教授(国際経済学) 伊藤 元重

るのだろうか。この問いに答えるためには、100年以上前にさかのぼる必要がある。当時、米国では手動式のタイプライターが多くの人々に使われていた。文字キーを打ち込むと、その活字の入ったピンが出てきて紙に文字がプリントされるという仕組みだ。この手動式タイプライターの問題は、プロ

ーを打ち込めないような文字配列にすればよい。QWERTYの配列は、タイプリストが英文を打ち込むとき、指を大きく動かさなければタイプできない配列となってい。つまり速いスピードで打ち込みにくいタイプライターなのだ。この文字配列のタイプライターはジャミングを起こないので、

旧来の慣行への挑戦

のタイピストのようにあまりに速く文字を打ち込む人がいると、複数の文字キーが絡まってしまうことがある。これをジャミングといふようだ。

そうしたジャミングを起こさないためには、どんなに熟練したタイピストでも、あまり早く文字キ

大ヒット商品となつたようだ。そこで多くの人がこの文字配列でタブライターを学ぶようになり、それ以外の文字配列は次第に姿を消してしまった。今や世界中のホームページがこの配列になつたといふわけだ。

人が打ち込みにくい配列のキーを
一ドを使い続けている。

トの時給は、正社員の時間当たりの給与よりも大幅に低いということが正当化できるのだろうか。
政府が掲げている同一労働同一賃金は、まさにこうした旧来の慣行への挑戦である。同じ仕事をするなら給与に大きな格差が出るのはおかしい。

ある。今やパソコンのキーボードはタイプされた文字を電気的に読み取るので、ジャミングなど絶対起こらない。だから、もつと早く打ち込めるような文字列にしてよいはずだ。現実にも、そういう文字列の製品も幾つかは出たとうだ。しかし、結局は旧来の文書処理方式には勝てない。多くの人がその配列のキーボードに慣れているので、他の配列の製品は売れちゃうからだ。結局、今でも世界中の

改革していくためには、政策的な圧力が必要となることも少なくない。こうした慣行の例として、終身雇用・年功賃金制度があるように思える。この制度は、かつては重要な機能を果たした。しかし、同じ能力でも年齢が若ければ給与を低くし、長く勤めた人には給与を高くするところに合理性があるのだろうか。ましてや、同じ仕事をしているのに、パートやアルバイト

ある。今やパソコンのキーボードはタイプされた文字を電気的に読み取るので、ジャミングなど絶対に起こらない。だから、もつとまく打ち込めるような文字列にしてよいはずだ。現実にも、そうした文字列の製品も幾つかは出たようだ。しかし、結局は旧来の文書配列方式には勝てない。多くの人がその配列のキーボードに慣れてるので、他の配列の製品は売れちゃいからだ。結局、今でも世界中の人が打ち込みにくい配列のキーボードを使い続けている。

改革していくためには、政策的な圧力が必要となることも少なくない。

こうした慣行の例として、終身雇用・年功賃金制度があるように思えるこの制度は、かつては重要な機能を果たした。しかし、同じ能力でも年齢が若ければ給与を低くし、長く勤めた人には給与を高くするなど、何と不合理性があるのだろうか。ましてや、同じ仕事をしているのに、パートやアルバイトの時給は、正社員の時間当たりの給与よりも大幅に低いということが正当化できるのだろうか。

政府が掲げている同一労働同一賃金は、まさにこうした旧来の慣行への挑戦である。同じ仕事をするなら給与に大きな格差が出るのはおかしい。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。
無断転載、複製を禁します。